



第2回 理論的思考力



ロジカルシンキング

ロジカルシンキングとは、日本語で論理的思考と呼ばれている。論理的思考は「理論的に理解することと、理論的に相手に伝えること」から成り立っている。

「論理的に考える」とは物事の構造関係を意識し、因果関係を意識することである。分類したり、整理したり、組み立てたりして、筋道を立てて考え、「論理的に考える」のは、数学や論理学のような学問をするためではなく、日々の業務を効率的に進めるためなのを言うまででない。

一般的にロジカルシンキング（論理的思考）というと、難しい理論を用いて相手を論破するための思考のようなイメージがある。しかし、実際は、難しいものを単純にし、構造化（誰が見てもわかりやすく）し、相手を納得させ、相手と協調するための思考方法である。

また、ロジカルシンキングは、物事をモレなく、ダブリなく、効率的に、戦略的に考える上で大切な思考法と考えられる。



ロジカルシンキングの基本思考

ロジカルシンキングは、学問上の理論とは異なり、課題の設定から実行可能な対応策の考案、そして実際の行動の管理までの一連のプロセスを経て成果を上げていくのに必要なものである。ロジカルシンキングの、代表的な思考スタンスについて解説する。

<仮説思考>

仮説思考とは「ある時点で考えられる仮説をもとに行動する」という考え方である。その仮説を検証し、課題の解決策を導いていく。仮説が間違っていたら、新たな仮説を立てて検証していく。

あらかじめ仮説を立てて行動した方が、資源や時間を効率的に使うことができる。仮説がないまま行動すると、思いつくもの全てを実行に移そうとしたり、行動にモレが生じたりする可能性がある。

ただし、仮説思考において重要なことは、仮説の検証に時間をかけすぎないことである。なぜなら、本来の目的は仮説が 100% 正しいことを証明することではなく、仮説の積み上げによって得られる迅速な対応策だからである。検証に時間をかけ、チャンスを逃したのでは元も子もない。「ビジネスにおけるロジカルシンキング」は、完璧に理論づけるような「学術的な論文」とは大きく異なる。

<ポジティブ思考>

ポジティブ思考とは「いまよりも良い解決策が存在する」という考え方をすることであり、「次は良い結果になるさ」という楽観的な思考とは異なる。

先に述べたようにビジネスでは、仮説が 100% 正しいこと、ベストの答えは存在しない。なぜなら、その時点のベストは、環境が変わればベストな答えではないからである。100%の正解を目指すのではなく、あくまで限られた時間の中で、ベターな対応策を見つけることが重要となる。

ただし、ポジティブにも 2 種類あり、失敗しても悩まず、なぜ失敗したのかを冷静に判断、そして素直に反省し、失敗を繰り返さないように気をつける人と、なぜ、失敗したのかの反省もせず、失敗をひたすら繰り返す、悪い意味での楽天的な考え方の 2 通りである。

後者は、失敗をひたすら繰り返し、取り返しのつかない大失敗をした時に、初めて気づく隠れネガティブの可能性が高い。

さらに、日本人にとって、ポジティブ思考とは「思考停止」という程度の意味を持つ場合があるので注意を要する。「ネガティブに考えない＝ポジティブ思考」である。

「思考停止」が成功を招くこともときにはある。従来日本の社会では「思考停止」をしておけば成功とまではいなくても大きな失敗はなく、思考停止が「生存」を保障するようなどころがあった。

<逆算思考>

逆算思考とは、「こうしたい。こうなりたい。」という将来の目標や理想を描いて、そこから今何をすればそこに到達するかを考える思考法である。

例としては、ある販売店が「年商 10 億円」を目標に据えたとする。「その目標を達成するためには？」という自問をする。「そのためには、ダイレクトメールのヒット率を 20% 上げる。」と答える。次に、「では、ダイレクトメールのヒット率を 20% 上げるには？」と自問する。「そのためには、顧客データベースの整備率を 95% にする。」このように、目標に対する対策がつぎの目標となり、階層的に目標と対策が繋がってくる。ただし、これらの目標や対策は、具体的な数値を挙げることが望ましい。

こうすることによって、問題解決の構造が可視化されるとともに、「今何をすべきか」が明確になり、中間評価値が設定されることにより、早期の是正が可能となる。

管理と監理

管理はmanagement

「業務や組織を取り締ること、また機材の保管や運用を取仕切ること」とあり、全体の事務管理をすること。知識があれば、技術者じゃなくても出来ること。

「管理」と言うときは、その目的に従って事務または仕事を処理し、または、財産や物の性質の範囲内において利用・保存・改良することを意味します。ときには、「統制」の意味で使われることがあります。

監理はsupervising

「業務などを指示したり指導したりして取り締ること」とあり、仕様、設計図に沿って工事や作業の進捗を調整すること。

上位の立場にある者が、下位の立場にある者の行為について、それが目的を達成するのに不適當ではないかどうかを監視し、必要に応じて「指導」「指示」「指揮」などを行うことを包含した概念です。「監理」は、監理を行う側にもその行為について責任を有する場合に用いられます。